ダックビルのWeeklyレポート

Klug Chief Strategist
Kazumasa Yamaoka
Weekly Forex Report

力強いインフレ傾向継続で利上げ期待を後押しへ～米消費者物価指数

2018年5月7日（月）

事前見通し通り政策金利の現状維持が示された
先週の米連邦公開市場委員会（FOMC）では、
声明の中で、これまで見られた「インフレの動向を注意深く監視」という文言が削除されました。

6月の利上げがほぼ確実視される中で、
FRB当局が物価動向に自信を持っているという印象を与えました。
実際に米国のインフレターゲットの対象であるPCEデフレータは
前年比＋2.0%とターゲット水準を達成。
コア部分も+1.9%と2.0%に迫る好調さを見せています。
FRBの二大命題は雇用の最大化と物価の安定です。
雇用についてはほぼ完全雇用状態といわれている状況、
遅れが見えた物価も単月の数字にそこまでこだわってはいないとはいえ
とりあえずターゲットに達した格好です。
これによって、追加利上げへの大義名分がはっきりと示された形となりました。

もっとも、どれだけ増加しても基本的にはOKな雇用者数と違い
物価に関しては、上がりすぎても下がりすぎても問題。
中期的にターゲット近辺で安定するために、
今回のターゲット到達が一時的なものなのか、
それともさらなる上昇が見込まれるものなのか
今後の動向に注目が集まっています。

そうした中、今週は米国の生産者物価指数(PPI)と消費者物価指数(CPI)が発表されます。
米国のインフレターゲットの対象はあくまでPCEデフレータですが
消費者物価指数と基本的な傾向は似ています（水準は異なります）。
PCEデフレータより消費者物価指数の方が発表がかなり速いため
（今月発表の4月分でいうと、CPIが10日発表に対して、PCEデフレータは31日の発表です）
消費者物価指数に注目が集まる傾向があります。

また、消費者物価指数の前に発表されることが多い生産者物価指数も
前哨戦としての位置づけもあって、こちらも注目されます。

前回3月分の両指標は、
消費者物価指数が前年比+2.4%、食品・エネルギー除くコアが同+2.1%
生産者物価指数が前年比+3.0%、食品・エネルギー除くコアが同+2.7%
とかなりの強めの数字に。
いずれも2月分を上回る伸びとなりました。

堅調な雇用などを背景に、景気拡大が物価の上昇を誘う展開が続いています。

こうした中、今回の予想値ですが
9日21時半発表の生産者物価指数が
前年比+2.8%、同コア前年比+2.4%、
10日21時半発表の消費者物価指数が
前年比+2.5%、同コア前年比＋2.2%となっています。

生産者物価が若干鈍化傾向も、より注目度の高い消費者物価指数が
強かった3月分をさらに超える好結果が見込まれています。

予想通りの数字が出てくると、6月の利上げはもちろん、
今年これからの利上げペース加速期待にもつながり、
6月、9月もしくは6月、12月の計二回が主流の今後の利上げ見込みが
6月、9月、12月の計三回に強まるきっかけとなる可能性が十分にあります。

ドル高の勢いがさらに加速するだけの材料とも成り得ますため要注意です。

ここに掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、特定の商品などの投資の勧誘を目的としたものではありません。
最終的な投資判断は、お客様ご自身の判断と責任によってなされ、この情報に基づいて被ったいかなる損害について「株式会社みんかぶ」では責任を一切負いかねます。「株式会社みんかぶ」は、信頼できる情報をもとに情報を作成しておりますが、正確性や完全性について責任を負いません。ここに掲載されている情報は、作成時点のものであり、市場環境等の変化などによって予告なく変更または廃止されることがあります。ここに掲載されている情報の著作権は、株式会社みんかぶに帰属し、株式会社みんかぶの許可無しに転用、複製、複写はできません。株式会社みんかぶ